

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2026年度)

| | | | | | | | | | |
|----------------|---|---|-----------------|------|-------------|----|---------|---------|----|
| 専門分野区分 | 情報処理基礎 | 科目名 | データベース技術 | | | | 科目コード | T1040A4 | |
| 配当期 | 後期 | 授業実施形態 | 通常 | | | | 単位数 | 4 単位 | |
| 担当教員名 | 吉田 育弘 | 履修グループ | 1B(JT/KN/KS/SN) | | | | 授業方法 | 講義 | |
| 実務経験の内容 | <p>製造業(一部上場)の情報システム部門(16年間)にて、システムエンジニア、プロジェクトマネージャーを歴任後、CIO(情報統括役員)補佐として、経営をサポートする情報システム(例:国内・海外各社の経営情報の収集・一元管理他)の企画、開発、運用を指揮。また、システム・業務の信頼性、安全性、効率性を向上させるべく、システム監査、内部統制監査を適時実施。独立後(20年間)、IT経営コンサルタントとして、各企業(製造業、サービス業他)に対し、経営とITの橋渡し、監査等の支援業務を実践。これらの実務経験に基づき、情報共有・活用に必要不可欠なデータベースの構築、運用など、実務に密着した知識、スキル、ノウハウを教示する。</p> | | | | | | | | |
| 学習一般目標 | <p>企業で行う業務(タスク)で必要となる知識、技術を習得する。 授業と自宅学習を通じて習得した基本的な知識を組み合わせる力、応用する力を養い、過去に出題されたFE午後問題を授業内で解くことで午前・午後問題に関して解くことができるという自信を持つことが目標となる。 「情報」は企業の経営資源「人・物・金」に次いで第4の経営資源と言われている。本授業では、「情報」を企業の共有資源として効率よく表現する「データベース」について、その考え方、設計に必要な基本的な手法、データベースの仕組みを理解し、その活用のための言語であるSQLの使用方法を修得することを目標とする。そして、データベースを構成する情報処理システムについて、その処理形態、信頼性、評価方法を理解することを目標とする。</p> | | | | | | | | |
| 授業の概要および学習上の助言 | <p>データベース分野では、データベースの概要として、データのモデル化手法に関するER図、正規化理論、DBMSに関する排他制御、障害回復について説明・演習を行う。次に、SQL言語の基本的な文法を説明し、演習を通じて机上でSQL文の結果が導き出せるようにしてもらう。情報処理システム分野では、様々な形態について説明するとともに、CPUのMIPS値、稼働率の計算演習をおこなう。教科書をベースとして進めるが、項目によっては別途プリントを配布してより詳細に説明する。</p> | | | | | | | | |
| 教科書および参考書 | <p>教科書:「ITワールド」(第4部データベース と 第2部情報処理システム) (株)インフォテック・サーブ 参考書:基本情報技術者午前問題集(インフォテック・サーブ) キタミ式イラストIT塾 基本情報技術者</p> | | | | | | | | |
| 履修に必要な予備知識や技能 | なし | | | | | | | | |
| 使用機器 | 書画カメラ プロジェクタ | | | | | | | | |
| 使用ソフト | | | | | | | | | |
| 学習到達目標 | 学部DP(番号表記) | 学生が到達すべき行動目標 | | | | | | | |
| | 1 | データモデルとして関係データベースの特徴を説明できる。単純な事例についてER図を作成できる。 | | | | | | | |
| | 1 | データの正規化を行うことができる。排他制御、障害回復の概要について説明できる。SQL文の文法を理解し、基本的なプログラムを作成できる。 | | | | | | | |
| | 1 | 情報処理システムの形態、構成の概要について説明できる。データモデルとして関係データベースの特徴を説明できる。 | | | | | | | |
| | 2 | 知識を組み合わせ、午後問題の題意を理解し、解くことができるようになる。 | | | | | | | |
| 5 | 関心意欲を持ち取り組むことができる。 | | | | | | | | |
| 達成度評 | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表(口頭・実技) | 作品 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| | 学部D | 1.知識・理解 | 30 | 10 | | | | | 40 |
| | | 2.思考・判断 | 20 | 10 | 15 | | | | 45 |
| | | 3.態度 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--------|---------|----|----|--|--|--|----|-----|
| 価 | P | 4.技能・表現 | | | | | | | |
| | | 5.関心・意欲 | | | | | | 15 | 15 |
| | 総合評価割合 | 50 | 20 | 15 | | | | 15 | 100 |

評価の要点

| 評価方法 | 評価の実施方法と注意点 |
|-------------|--|
| 試験 | 定期試験時に基本情報技術者試験の午前問題と午後問題に関する過去問を出題する。 |
| 小テスト | FE午前問題に関する過去問、また、FE午後問題と同レベルの問題を出題する。 |
| レポート | 課題解決型授業に取り組み、とりまとめて提出する。 |
| 成果発表(口頭・実技) | |
| 作品 | |
| ポートフォリオ | |
| その他 | 出席回数、態度など総合的に判断します。 |

授業明細表

| 授業回数 | 学習内容 | 授業の運営方法 | 学習課題(予習・復習) |
|------|--|---------|---|
| 第1回 | 第4部 データベース データベース方式 ・データベースの種類と特徴 ・データベースのモデル ・DBMS データ操作① ・データベースの操作 ・SQL① | 講義・演習 | 1 データベースの概要 1-1データベースとファイルの違い(P210) 2 SQL 2-2-1 条件指定のない参照(P229) |
| 第2回 | データ操作② ・SQL② | 講義・演習 | 2 SQL 2-2-2 条件指定のある参照(P230) 2-2-3 データのグループ化(P232) |
| 第3回 | データ操作③ ・SQL③ | 講義・演習 | 2 SQL 2-2-5 テーブルの結合(P234) |
| 第4回 | データ操作④ ・SQL④ | 講義・演習 | 2 SQL 2-2-6 副照会(P236) 2-1 データ定義(P225) 2-2-7 その他のSQLの使用 方法(P238) |
| 第5回 | データベース設計① ・データ分析 ・データベースの論理設計 | 講義・演習 | 1-2 データベースの設計(P211) 1-2-1 データモデル(P211) 1-2-2 関係モデル(P212) |
| 第6回 | データベース設計② ・データ分析 ・データベースの論理設計 | 講義・演習 | E-Rモデル演習 1-2-3 データベースの概念 設計(P214) |

| | | | |
|------|---|-----------------|---|
| 第7回 | データベース設計③ ・データの正規化 ・データベースの物理設計 | 講義・演習 | 正規化演習 1-2-4 データベースの論理設計(P216) |
| 第8回 | トランザクション処理① ・排他制御 ・リカバリ処理 ・トランザクション管理 | 講義・演習 | 1-3データベース管理システム(P218) 1-3-1 データベース定義機能 1-3-2 データベース操作機能 1-3-3 データベース制御機能 |
| 第9回 | トランザクション処理② ・データベースの性能向上 ・データ制御 データベース応用 ・データウェアハウス ・データマイニング ・分散データベース ・リポジトリ 基本情報技術者試験午後問題演習・解説 | 講義・演習 | 1-3-3 データベース制御機能 (3)障害回復機能(P222) 3 いろいろなデータベース(P239) |
| 第10回 | 第2部 情報処理システム システム構成要素① ・システムの処理形態 ・システムの利用形態 ・システムの適用領域 ・仮想化 ・クライアントサーバシステム ・WEBシステム ・シンクライアントシステム | 講義・演習 | 1 情報処理システムの処理形態(P106) 1-1 非対話型処理システムと対話型処理システム 1-2 一括処理システムと即時処理システム 1-3 集中システムと分散処理システム |
| 第11回 | システム構成要素② ・フォルトトレラントシステム ・RAID ・NAS ・SAN ・P2P ・ハイパフォーマンスコンピューティング(HPC) ・クラスタ | 講義・演習 | 2 高信頼化システムの構成(P114) 2-1 直列システム 2-2 並列システム 2-3 多重化システム |
| 第12回 | システムの評価指標① ・処理の能力の評価 | 講義・演習 | 3 情報処理システムの評価(P120) 3-1 処理能力の評価 |
| 第13回 | システムの評価指標② ・信頼性指標 ・信頼性特性と評価 ・経済性の評価 ヒューマンインターフェース ・GUI ・画面設計 ・コード設計 ・ユーザビリティ マルチメディア ・パルス符号変調 ・静止画(BMP・Jpeg・GIF) ・動画処理 ・CG、3D、VR | 講義・演習 | 3-2 信頼性の評価 4 ヒューマンインターフェース(P133) 4-1 ヒューマンインターフェース技術 4-2 インターフェース設計 5 マルチメディア(P144) |
| 第14回 | 課題解決型授業 I 必要な情報を取得する | 遠隔授業 実施時期:5期 | 遠隔授業 実施時期:5期授業内容を復習 |
| 第15回 | 課題解決型授業 I データベース設計を考える | 遠隔授業 実施時期:7期 | 別途指示 |